

令和5年度 学校評価自己評価表（最終）

三次市立三次小学校

【達成度】＝達成値／目標値×100 【評価】④≥100, 80≤③<100, 60≤②<80, ①<60											
領域	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための主な方策	評価指標	目標値	中間		年度末		結果と課題の説明	改善計画
						達成値	評価	達成値	評価		
						達成度		達成度			
確かな学力の育成	学力の定着・向上	基礎学力の向上	□朝のドリルタイムでは、認知機能強化のドリルを取り入れ、授業では集中して取り組む時間を設けて定着を図る。	◆単元末テストの「教と計算」領域の「知識・技能」の項目の平均正答率が75%以上にする。 ◆市学力到達度検査で平均正答率70%以上にする。	75%以上 70%以上	88.9% 118.5	④	88.6% 118.1	④	平均正答率が75%以上にする目標を達成することができた。後期も児童の実態に応じてドリルタイムを行ったり、給食準備時間に学力補修を行ったりした。また、日々の授業で実態に応じた工夫をしてきたことで、維持につながったと考える。しかし、筆算が複雑になってくる単元や新しく学ぶ数の概念の単元において課題が見られる。 市学力到達度検査の算数の3～6年の平均は70%以上と目標を達成することができた。前述で示したような取り組みを続けたことで結果につながった。しかし、学年によっては70%に達成していない学年もあった。	課題の単元につながる学習の復習を行い、向上を目指していく。また、課題の大きい児童がいるので、引き続き個の見取りも行っていく。
		育成すべき資質・能力の向上	□「主体性」「協調性」「表現力」を意識した単元構成の工夫 □聴き合い、伝え合う授業づくりや自分の思いを伝えることができる学級風土の確立	◆総合質問紙（コミュニケーション能力、協調性、主体性）の項目で肯定的に答えた児童の割合を70%以上にする。	70%以上	72.5% 103.5	④	74.3% 106.1	④	3観点の平均は70%以上であった。前期と同様、主体性が85%と高かった。さらに、前期で低かった協調性が4.7ポイント向上した。しかし、高学年においては、コミュニケーション能力、協調性とも50%台と低めである。自分の意見や友達の意見に対しての思いなどを伝えることに課題がある。	引き続き、自分の思いを伝えても大丈夫という学級の雰囲気作りを行うとともに、グループ活動等の機会を作り、自分を表現する体験を積み重ねられるような場を仕組む。
豊かな心の育成	社会性、自己認識の向上	生徒指導諸問題の未然防止	□挨拶および始業時間厳守の徹底 □いじめの根絶及び未然防止の取組	◆児童アンケートの評価において、「自分から挨拶ができる」児童の割合を75%以上にする。	75%以上	87.2% 116.2	④	87.8% 117.1	④	児童のあいさつに対する自己評価は継続して高い状況にある。児童会を中心とした登校時の「あいさつ運動」に、多くの5年生が参加し、6年生から5年生へ円滑な世代交代ができていると感じる。児童会のあいさつ目標についても、全体の89%が肯定的な結果である。また、「あいさつ名人」や「表彰状」など肯定的に評価する場を継続して設けている。	アンケートの指標が自己評価であるため、より客観的な視点を持たせるために、職員や保護者、地域の評価も加味していくことも考えられる。
		児童会活動の活性化	□児童会熱血宣言によるめあての設定と振り返り	◆熱血宣言達成率で全校平均80%以上 ◆総合質問紙調査（自己認識・社会性）75%以上	80%以上 75%以上	【熱血宣言】 86.5% (108.1) 【質問紙】 85.4% (113.9)	④	【熱血宣言】 87.7% (108.1) 【質問紙】 86.5% (115.3)	④	児童会熱血宣言の結果については、継続して高い水準を維持できている。児童会執行部が毎月目標を決め、代表委員会でも各学級において、取組結果を評価していくサイクルは確立できている。 総合質問紙調査について、自己認識と社会性を比較した際に、社会性の方が値が低い傾向にある。全体の場でふさわしくない行動をしたり、ルールも守れなかったりする児童が一定数いる状況にある。	児童会のさらなる活性化のためにも、代表委員会において、各委員会や各学級からの意見をもとめ上げていく。 児童一人一人の自己指導能力を向上させていくためにも、指導と評価を継続して行っていく。
健やかな体の育成	自律的な生活習慣の定着と体力の向上	基本的な生活習慣の充実	□生活づくり週間の取組 ・中学校定期試験期間中に生活づくり週間の取組（起床時刻・就寝時刻・朝食摂取・メディアコントロール）	◆メディアコントロール実施達成率（生活づくり週間アンケート）80%以上	80%以上	88.6% 110.7	④	82.5% 103.1	④	2回目の生活づくり週間の取り組み前に、みよし学園健康教育部会で作成した「睡眠」についての資料を基に全体で指導を行った。生活づくり週間中、82.5%の児童がメディアコントロールの目標を設定し、取り組むことができた。	今後より一層メディア機器の利用時間や利用内容等、自分でコントロールする力が求められるため、継続して健康面、メディアリテラシーの両面からの指導が必要である。また、小学校低学年（入学時）からの早めの保護者啓発が必要。 結果はすぐ出ないことでも、大切なことは継続して伝えていくことに意義があると思う。
		健康安全意識と体力の向上	□体育科、体力づくり運動の工夫と充実 ・主運動と関連づいた体づくり運動の計画実施 ・委員会等を利用した全校での体力づくりの取組	◆運動が好き、体育の授業が楽しいと答える児童の割合（児童アンケート）80%以上	80%以上	アンケート未実施	—	運動→ 95.5% 119.3 授業→ 94.6% 118.2	④	児童アンケートを実施。「運動が好き」と回答した児童は95.5%。「体育の授業が楽しい」と回答した児童は94.6%だった。運動や体育がにがて、嫌いと回答した児童は、「ボール運動が頭に当たったら怖い」「走ることが嫌い」などの意見があった。 2学期以降、運動場の使用制限もあり、体を動かす機会が減っている。3学期には、縄跳びカードを配付し、全校で縄跳びに取り組んだ。	「難しくなく、誰でも分かりやすく楽しくできる体育がいい」と、児童の意見があった。運動能力の向上とともに、運動が苦手な児童にも運動の楽しさを味わわせることが、生涯体育につながると思える。 スモールステップで感覚・技能を身に付けさせる。また、できたことやチャレンジしている姿を積極的に褒めることで自信を持って活動できるよう支援する。
信頼される学校	コミュニティ・スクールとしての関心度・信頼度の向上	小中一教育の充実・発信	□各学年1回以上、地域・家庭と連携したキャリア教育プログラムの実施	◆各学年1回以上、地域・家庭と連携したキャリア教育プログラムを実施し、実施内容を家庭や地域へ発信する。	各学年1回以上	66.6%	②	100%	④	児童に地域や家庭と連携したキャリア教育プログラムを計画し、全学年1回以上実施した。11月の授業参観日に保護者、地域の方へ取り組みの様子を見ていただくこともできた。	地域・家庭と連携したキャリア教育プログラムを実施したことで、三次町に興味をもつ児童、様々な職業に興味をもつ児童が増えた。今後も、取り組みを継続していく。
		地域から学校への満足度・信頼度の向上	学校・学級だより等やHPにおいての情報発信	◆保護者アンケートで本校教育に対する肯定的評価の割合を80%以上にする。	80%以上	アンケート未実施	—	90% 112.5	③	保護者、地域へ学校、学級での取り組みの様子を伝えるため、学校・学級だよりの発行、HPの更新に取り組んだ。 (アンケート回収分のうち、肯定的評価の割合90%)	今後も、学校・学級だよりの発行、HPの更新をし、地域・保護者へ情報発信を行い、学校、学級での取り組みの様子を伝えていく。